

平成29年度第5回協働事業評価会

平成29年11月10日（金）午後1時30分

本庁舎6階 第3委員会室

出席者：久塚委員、宇都木委員、関口委員、衣川委員、竹井委員、及川委員、伊藤委員、
平井委員、加賀美委員、高橋委員

事務局：地域コミュニティ課長、神原管理係主査、勝山主任、松永主事

久塚会長 定足数は達していますから会議を始めたいと思います。第5回の協働事業評価会ということになります。資料確認をお願いいたします。

事務局 では、資料の確認をさせていただきます。まず、1枚目が次第でございます。

2枚目ですけれども資料1、A4の横で点数表がついております。

続いて、資料2、コメントのまとめとなっております。

資料3が主な着眼点でございます。

資料4が報告書（案）でございます。

皆様おそろいでしょうか、よろしいでしょうか。

以上でございます。

久塚会長 構成をまず確認するというので、資料4のほうから進める形でよろしいですか。では、資料4のほうからお願いします。

事務局 では、資料4のほうをごらんください。報告書の構成についてお諮りをしたいと思います。昨年度までの報告書のほうをベースにして作成をさせていただいております。

では、1枚おめくりください。1ページ目でございますけれども、委員名簿となっております。

2ページ目をごらんください。こちらが評価を終えてということで、会長のお言葉の部分となっております。網かけの部分につきましては、会長とご相談の上お言葉を入れさせていただきます。次回の評価会でお諮りをしたいと思っております。

それ以外の項目につきましては、昨年度と同じ文言とさせていただきます。

続きまして、3ページ目でございます。評価の概要と目的のところでございますけれども

も、上のほうの2行目の網かけの部分でございますけれども、協働事業の進捗調査の数等のところでございますけれども、29年度の直近の調査を今、させていただいておりますので、後ほど入れさせていただく予定となっております。

それから、下線部のところは今年状況に合わせて修正をさせていただいております。「地域の担い手『ごっくんリーダー』による『食べる力』推進プロジェクト」について1年目の評価を実施しましたということで修正をさせていただいております。

3ページ目は、それ以外は昨年度と同じ表現とさせていただいております。

おめくりいただきまして4ページ、5ページをごらんください。4ページが評価の手法、5ページ目が主な着眼点の部分でございます。こちらについては特に修正等ございません。5ページ目の点数のところも4がすぐれているということで、4から1にかけて点数が下がるという形で昨年度からは修正をさせていただいております。

では、また1枚おめくりいただきまして6ページをごらんください。評価の対象でございます。(2)番のところは29年度実施の1事業、28年度に採択した実施1年目の事業ということで書かせていただいております。

(3)番の評価対象期間ですが、29年4月から9月、29年度の事業計画・9月末までの実施状況。

それから、(4)番で評価の実施経過ということで、視察ですとかヒアリングの日程等々を入れさせていただいております。

続きまして、7ページ、8ページでございますけれども、事業概要ですとか、目標成果の欄でございます。こちらは団体のほうから出していただいております事前確認書のほうをそのまま入れさせていただいているという形になっております。

それから、おめくりいただきまして9ページ以降でございますけれども、9ページから13ページまでが評価の結果を入れるページとなっております。

久塚会長 今入っているのは？

事務局 これからたたいていただきますコメントのまとめを。

久塚会長 色分けされたものがそのままポンと入っているような形になっている？

事務局 そうです、イメージとして入れさせていただいております。

それから、14ページですけれども、14ページ以降の参考資料の目次となっております。15ページが事前確認書の様式。16から18ページまでが自己点検シート。それから、19、20が相互検証シート。21ページ以降がヒアリングで提出を受けた資料の添

付とさせていただきます。

報告書のほうの構成につきましては、ご説明は以上でございます。

久塚会長 ありがとうございます。1年目の報告書ですけれども、これは形の上でこういう形よろしいでしょうかということで中身は、評価については後の議題になりますので、形式を含めて、年度が間違っているよとか、お気づきであれば入れてほしいのですけれども。

よろしいですか、形はこれで？

宇都木委員 はい。

久塚会長 ではこれで進めましょう。

事業評価を終えてという会長名での文章につきましては、今発言がありましたように次の会議のときに諮るということですね。

事務局 はい、皆様にお諮りしたいと思います。

久塚会長 私の文章を入れたものを出すことになっておりますけれども、案自体については今進行中ですのでもうちょっと待ってください。

では、評価の中身に入っていくことになりますけれども、それについて進めてください。形はこれでいいということになります。

事務局 点数の決定のほうに入らせていただいてよろしいでしょうか。

久塚会長 はい、まずはこの時間から先に進めていいですか。

事務局 よろしいですか。では、資料1のほうをごらんください。点数表でございます。右半分と左半分に分かれております。左半分のほうが空欄になっておりますので、これからご審議をいただきまして、皆様で丸をつけて点数のほうを確定していただく様式になっております。

右半分のほうが各委員の点数ということで、既にご提出いただいた点数のほうを入れさせていただきます。一番右端が平均点ということで入れさせていただきますので、点数の確定の際にご参考にしていただければと思います。

では、よろしく願います。

久塚会長 事前に少し下で見せていただいたのですけれども、あまり議論しなくてもいいのかなという。こういう点数からいうとそういう形になりそうですが、原案を発言しながら進めてよろしいですか。

伊藤委員 はい。

久塚会長 まず、計画、①のとらえ方については3点。それから、2番目、目標の設定、成果目標の設定については2点。協働の相手方への期待とその成果、3点。役割分担の決定方法、2点。進捗状況や事業に関する情報の共有、2点。協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い、2点。最後、改善すべき内容の把握、2点。総合評価、Cということで、評価指標は4段階なのでこういう形になりますけれども、総合評価は5段階評価ということでCの形になっているのだと思いますが、今2点と発言したもののうち、5番については2の数がこれだけあると。6番については斜めにバーが入っているのですけれども、それで平均をとって同じく2.4ということで2点と発言させていただきました。

この点、今の評価指標に合わせることでよろしいですか、結論的には。

伊藤委員 はい。

久塚会長 では、そのように。もう一度読み上げますが、上から3、2、3、2、2、2、2、C。よろしいですか。

関口委員 はい。

久塚会長 では、そのようにまずは点数、評価点を入れさせていただきました。

昨年というか、今までの会議でもそうだったのですが、いろんなご意見をいただいてコメントを書きます。それから、書く際に、それをまとめていく際にこの3点とか2点とか入れたものに合わせるような形で3であれば適切である、2点であれば課題はあるがほぼ適切であるというものに合うような形でのコメントにまとめ上げていくほうがいいのではないかというご意見はいただいております。

そういう意味で資料2を説明いただく前にちょっと見ていただきたいのですが、一つ目はコメントのまとめ、文章はさておきピンクが多くなっていますけれども、2番だとブルーが多くなっているという形になっていますけれども、3番は3点をつけたのですが、ブルーの割合もある程度あると。これはマイナスというか、課題とかこれからへの期待まで含めて色付けしているものもありますので、事務局に右側のコメントのまとめという部分だけを全部読んでいただいて、それで結論を得ていきたいと思っておりますけれども、そういうものでいいですか。

では、お願いします。

事務局 では、ご説明をさせていただきます。評価書のほうをご提出いただきましてありがとうございます。ご提出いただいた評価書をもとにコメントのほうを事務局のほうで集約、整理をさせていただいたものが資料2となっております。本日はこちらのほうを

たたき台としてご意見をいただきたいと思っております。

今回は12月15日になりますけれども、こちらのほうで本日のご意見をもとに修正したものを確認いただきまして確定をさせていただきたいと思っております。

まとめに当たりましたは主な着眼点、こちらのほうを踏まえてまとめさせていただいております。また、比較的多く寄せられたものを中心に、全体の整合性を見ながらまとめさせていただきました。よい評価がピンク、課題や努力が必要な部分を青とさせていただいております。

ぜひこのコメントは取り上げてほしいとか、そういったご意見がございましたら、本日ご意見のほうをいただければと思います。一通りコメントのまとめのほうを読ませていただきますので、一番最後にご意見のほうをいただくという形で会長、よろしいでしょうか。

久塚会長 はい、そういう進め方をしますので、1番について、ここ、あれだなと思ったら自分でチェックしておいてください。進めていく必要があるので、まずは総合の前までお願いします。

事務局 わかりました。では、資料2、右側のコメントまとめの部分を読ませていただきます。1番ですが、事業における区民ニーズや課題のとらえ方、こちらは評価点3点になります。今後ますます加速化する高齢社会において、摂食嚥下機能の維持・向上は重要な課題です。生涯にわたって口から食べ、いつまでも健康な生活を送ることは多くの人たちが願っていることだと考えます。しかし、摂食や嚥下に不自由を感じている高齢者は多く、区民に向けた効果的な普及啓発が喫緊の課題となっています。

そうした中、本事業は、区民が自発的に取り組み、日常生活で習慣化できるような活動を普及啓発することで、日常的な口腔機能の維持向上を目指しており、地域の核となる人材「ごっくんリーダー」の育成や、楽しく口腔機能の向上に取り組むことができるツールの開発を行うこととしています。課題を的確にとらえており、健康寿命向上や介護予防等にもつながる社会的ニーズが高い事業であると言え、その効果が期待される事業となっています。

1番は以上でございます。

1枚おめくりください。2番です。この事業の成果目標の設定です。こちらは評価点2点です。成果目標として、リーダーの育成数や普及啓発イベントの開催、DVDの製作やその作成枚数等を設定しており、双方で協議し、明確な目標を立てて事業が実施されています。

一方で、区民に広く普及啓発していくという点では、事業参加者へのアンケート等により、体操の継続状況、摂食機能に対する理解や意識の向上、当事者による口腔機能の向上の確認を行うなど、アウトカム指標の設定が必要と考えます。さらに、一人でも多くの方をリーダーとして養成すること、養成したリーダーやDVDの活用等について、もう一歩踏み込んだ、より具体的な目標設定がされることを期待しています。

事業ごとにその効果はかれるような指標の設定や参加者の意識変化をはかるような指標の設定を検討してください。

次でございます。3番が協働の相手への期待とその成果です。こちらは評価点3点でございます。実施1年目ということで、当初は思いや期待が異なる部分があったようですが、事業の方向性・対象・方法等の方針について時間をかけて協議を重ねた結果、共通認識に立って活動ができるようになったと評価します。

また、これまでに摂食嚥下機能支援イベントを団体と区が共催で実施した実績があることから、協働事業として、区のネットワークはもちろんのこと、団体のノウハウや地域団体・医療機関等とのつながりを生かした取り組みが期待できる事業となっています。こうした実績が十分に生かされて、3年間という限られた期間の中で、双方の持つネットワークを駆使し、できるだけ多くの関係者に参加を呼びかけるなど、協働の相乗効果を十分に発揮して、効果的に事業実施していくことを期待しています。

1枚おめくりください。4番です。役割分担の決定方法です。こちらは評価点2点となっております。定期的な打ち合わせや電話等によりコミュニケーションを図りながら、役割分担について対等な立場で意見交換に努めています。事業の企画等について双方でよく検討している点や、団体の人脈を生かして専門家を交えた会議を設置するなど、ノウハウや実績を生かして事業実施されている点は評価できます。

一方で双方の役割や責任の範囲が明確になっているどうかは検討が必要です。協働事業として、最も効果的な分野をお互いが担った役割分担となっているか、各々の強みを生かしたものとなっているか検討し、各々の担うべき役割を明確にしながら事業実施していくことが重要です。2年目に向けて検討されることを期待しています。

1枚おめくりください、5番です。事業の進捗状況や事業に関する情報の共有でございます。こちらが評価点2点です。プロジェクト会議の設置や打ち合わせを随時設けるなど、密に連絡を取り合っています。お互いの得意分野や不得意分野も話し合いを行うなど、情報の共有に努めていると評価します。

一方で、ごっくんリーダーの発掘や育成、区民への普及啓発状況等、具体的な事業の進捗が目標と比較してどのように進行しているか、把握しながら事業実施されているかという点では検討が必要と考えます。実施に当たっての必要経費や人員体制等も確認しながら、計画に沿って進捗管理していくことが重要です。

本事業の目標である、高齢者が健康な生活を送るためにどのような取り組みが必要かということも意識しながら、一層の取り組みがなされることを期待しています。

また、1枚おめくりいただきまして6番でございます。協働の相手方との成果目標の達成度などの話し合いでございます。こちらは評価点2点でございます。すみません、ちょっと赤字で修正をさせていただいております。こちら事前にメールで送らせていただいているのですけれども、赤字部分、お二人の委員さんからご意見をいただいていたので入れたのですけれども、ちょっと文章のつながりが悪くなってしまうのと、入れることでわかりづらくなってしまうのかなということで、できればちょっとカットをさせていただきたいと思ひまして本日赤字で入れさせていただいております。この赤字部分を除いて読み上げをさせていただきます。

定期的な会議の実施に加えて、事業展開に合わせてタイムリーに会議体を持つなど、新たな状況判断にも対応できる体制がとられています。考え方や方向性は一致しており、情報の共有に努めていると考えます。

一方で、計画に対しての実績の把握や成果目標の達成度の確認という点では、十分とは言えないと考えます。達成の見通しや、達成に向けた課題や問題点を整理し、次の活動へつなげていくことが重要です。実施2年目を視野に入れた話し合いを含めて、本事業の目標である「区民に向けての普及啓発」という視点で、目標は適切か、さらに目標に対しての達成度はどのようになっているか、意識しながら実施するように努めてください。

続きまして、7番でございます。改善すべき内容の把握です。こちらも評価点2点でございます。課題の共有や解決に向けた話し合いを行い、柔軟な対応がとられていますが、事業全体の進捗管理や目標の達成状況に向けた課題の把握と改善策の検討という点では課題があると考えます。また、3年目のホームページの構築に向けて、ウェブサイト等での広報についても力を入れるなどの検討が必要と考えます。団体の専門性が生かせるような体制がとられているか、区が担っている役割は適切なものとなっているか、互いの役割や体制についても検証しながら、課題解決に向けて十分に協議を行うことが重要です。

こうした活動を日常生活で習慣化し定着化していくのは、相応の時間を要することだと

と思いますが、双方で話し合い、よりよい方向を見出しながら事業実施していくことを期待しています。

総合評価までは以上でございます。

久塚会長 赤字のところ、コメントがあっただけだと思っておりますけれども、こういうコメントがあったのですけれども、中に入れるとつながりがということなので、もし文章表現でアドバイスいただければ中に違った形で入れ込むことも可能になるかもしれません。案として示しているのでご発言はいただきたいと思います。

まず、1番目から順番に確認をしていきたいと思います。事業における区民ニーズや課題のとらえ方についてのコメントのまとめについてご意見はありませんか。

衣川委員 左側の各委員のコメント、青い字になっている参加者層に偏りがありますとか、実現するための取り組みは一人でも多くの人たちが参加できるように努力されたい、この部分はどこかに入れているつもりなのかどうか、ちょっとどうなのでしょうかと聞いて、お二人入っているコメントを。

久塚会長 どういうふうに扱いましたかということによろしいのですか。

衣川委員 はい。

事務局 この青色のところはすみません、反映できておりません。1番のところは課題のとらえ方というところになりますので、ちょっとその参加者の方の部分というのをなかなか入れるのがちょっと難しく、この部分については反映ができないような状況になっております。

衣川委員 どこか別のコーナーでは入っているようなところがあるのでしょうか。

事務局 その1年目の評価が、事業の実施に関する部分というのがあまり評価項目に入っていないくて、今回はそのままとさせていただいております。

衣川委員 もし入れるとしたら。

久塚会長 幅の広い参加者、今後さらに幅を広げた層への参加が期待できれば、さらにいいものになるでしょうみたいな文章が入れば。

衣川委員 どこかに入ってもいいのかなというふうに思いました。

事務局 わかりました。

久塚会長 だから、ネガティブではなくて、もっと広くなるともっとよくなるよというように。

伊藤委員 それはそうでしょう、高齢者にかかわらず。

久塚会長 そう、そう、本当に風邪を引いたときにつらいですから、練習していないと。
1 番についてはよろしいですか。うまく丸くまとまっている文章です。

平井委員 一つだけ、ちょっと確認なのですが、文言の話なのですけれども。冒頭の今後ますます加速化する高齢社会とあるのですけれども、加速化するとなると高齢化社会とか、ちょっとそこら辺はまた後ろのほうにも、一番最後か、総合評価のところはコメントがそうなかったような、ちょっとそこは整理してみてください。

事務局 ありがとうございます。

平井委員 同じところが。

久塚会長 部長さんが気をつけてほしいというのは、そっちに向かっているというのと、もうでき上がったのがさらにそっちにいつているというのをどっちかわかりやすいような形で。

平井委員 恐らく定義で言うともう高齢社会、今度は超高齢社会と言われているので。あとはこの下から3行目なのですけれども、「健康寿命向上」とあるのですけれども。

衣川委員 延伸。

平井委員 延伸ですよ。

事務局 延伸。

加賀美委員 役所のほうでは延伸と言っているのだけれども。

平井委員 延伸、ここはどうするか、戻すかという、そこはこの委員会に任せますので。一応通常我々が使っているのは健康寿命の延伸。

衣川委員 延伸。

加賀美委員 行政的には延伸の言い方です。

事務局 では、延伸に修正をさせていただきます。

久塚会長 はい。

及川委員 及川です。先ほど衣川委員からありましたプロジェクトのことなのですけれども。例えば7番の改善すべき内容の把握の1から6のところには、もうちょっと入れにくいのかなとも思いますので、この7番なので検討していただいたらどうかという。

事務局 わかりました、ありがとうございます。

久塚会長 では、項目1についてはとりあえずよろしいですか。

では、2番に移ります。これはちょっとブルーが多い表示になっているみたいだけれども、ここから大体同じような、似たようなパターンが、ブルーが多いという。こうきて、

一方でというのが間に入ってつなぐというフォーマットができ上がっているようでございます。全体的なものとしては成果目標、それぞれあるみたいなのだけれども、事業ごとにいろんなことをあれしているからそれがわかるような形でという、最後は2行あたりがやっぱり重要なところだろうと思います。ボヤツとした概括的な成果目標の達成度ということでないやり方に努めていただければということのようですけれども。

関口委員 すみません、ちょっと私、ヒアリングにおくれてきてしまったので確認なのですが、この事業参加者へのアンケートは視察のときにもたしかやっていなかったと思うのですが、やっていないということでもいいのでしょうか。

事務局 やっています。

関口委員 満足度とかは、楽しかったとかはやっているけれども。

事務局 見本をすみません、本日の報告書（案）のほうにもつけさせていただいてまして、25ページにアンケートなどもつけさせていただいております。ちょっとまだ集計や分析というところまでは至っていないということで聞いております。

関口委員 わかりました。

久塚会長 よろしいですか。

関口委員 それで継続、課題、要はその場で何人がやっているとかは聞いているけれども、その個別にこの事業に参加した人に追跡調査というわけでもないけれども、ある程度この事業に参加したことで環境が継続しているとか、そういうことを調べてほしいということですよ、ここら辺は？

事務局 はい。

久塚会長 それよりもうちちょっとあれになるんじゃない。それもあるけれども、リーダーを育成したとか、DVDをつくったとか、こういうのを現場でこういうことをやったとかいう、それぞれあるので、それは一般的によかったどうこうという話ではなくて、例えばリーダー育成についてはどうかとか、そういうことがわかってくと総合的に進んでいるのが見えるというようなイメージだと思うのですが。

関口委員 なるほど。

久塚会長 そういうことですよ。

事務局 はい、リーダーに関しては。

確認していただくのと、あと多分イベントには同じ方も何回も出ていらっしゃると思いますので、その中での活動の確認というのもできるかと思います。

久塚会長 では、1回だけではなくて中で継続している。何回出たとか。なるほど、そういう意味での事業ごとというのも含んでいるそうです。

あまり難しいことではないので、そちらに向けて次に、ことし頑張ってくださいという。ただ、始まったばかりなので。よろしいですか。

伊藤委員 はい。

久塚会長 では、3番目の項目です。協働の相手方への期待とその成果ということで3点というのなのですが。

宇都木委員 すみません、ちょっといいですか。これは協働事業としては初めてだけでも、区と団体が同様な取り組みはやっているのだったよね、既に。

事務局 はい。

宇都木委員 もう経験があるのだよね。それがどの程度生かされているかということがちょっと見えない。だから、全くゼロから始まるのではなくて、既にそういう下地があって、その上で今度の協働事業が成り立っているのだとすれば、少しそういう下地のところが今度の事業にどう反映されて、どういう効果が、結果が出ているのかということをもうちょっとこれ、両方で話し合ってみたらいいんじゃないかな。

久塚会長 というとこの6番目のところの「摂食嚥下機能支援イベントを区と共催して実施した実績があり」という、その右側で言うとまた、これまでに実績があることからという、それを文章だけというよりは、そこで一定のベースがあるので、さらに何か期待できるみたいな文章というか、前に宇都木さんがおっしゃったスタートラインがゼロではなくて、あるのでそれを生かすともっといけるよという形に文章を入れるとどうですか。

伊藤委員 6と9の文章だ。

久塚会長 うん、6だ、一つは。

伊藤委員 あと9の「今回の協働事業にこれまでの取り組みが生かされ」、これと。

宇都木委員 だから、どういうところに広げればいいのかというところには、もうある意味では基礎的なところで既に経験しているので、だからそういうものがもうちょっと広まってもいいというか、取り組まれてもいいのではないかなと思うのだ。せっかくやってきたことが生かされなかったらもったいないことだ。

それがあったから協働事業に発展してきたのだから、だからそのところをもうちょっと大事にして基礎的なベースのところを、改善すべきところも含めてもう少し。

事務局 わかりました。

久塚会長 3点なので、2点にならないような表現に。

伊藤委員 下がってしまっている。

久塚会長 では、ほかに3番についてございませんか。

では、4番です。役割分担の決定方法ということです。決定方法という意味ではマイナスはあまりないのです。決定方法ではなくて、役割分担というところでブルーに近い形になっているので、決定方法はピンクのほうで、定期的な打ち合わせや電話でコミュニケーションを図りながらというのが決定方法だから、そこはある程度評価できているという理解で、下のほうは決定方法というよりは役割分担、責任が、範囲が明確になっているかどうか検討が必要だと。決定方法ではない。

だから、ここを何かうまい表現、決定方法についての課題のような表現方法にできればアドバイスとして、答えだけ求めるのではなくて決定するに当たっての方法だからと私は感じたのですけれども。

ブルーのほうを読むと範囲が明確になっているかどうかは検討が必要だと。協働事業として最も効果的な分野をお互いが担った役割分担となっているか。これも分担です。お互いの強みを生かしたものとなっているか検討し、これも決定方法ではなくて、各々の担うべき姿が明確にしながら実施していくことが重要です。これはもう分担の答えのほうなのです。

だから、決定方法についての課題という形での抽出をというか、何かそういうブルーの部分に決定方法を工夫することによってブルーのようなことが起こらないようにというような形をすればいいのかなと。

事務局 わかりました。

久塚会長 せっかくコミュニケーションを生かしているのだから、それを活用してないとブルーみたいなことが起こってしまうよというようなことです。

宇都木委員 これなんかも3のところと同じで、既にいろんなことを経験しているのだから、それを踏まえればもうちょっとやるべきことは、だれが何を分担するということがかかりはつきりして、もう少し先に進むのではないかという感じだ。

久塚会長 とても大切なことで、その目の前に迫った人たちがそれをするような状態ではなくて、もっとすそ野を広げてやることによって、いろんな事故やら肺炎の問題やらが減ってくるということはみんなわかっているのに、なかなか参加する人たちが、年齢層が偏っていたりするというのは、ちょっと残念だなと私自身は思うのです。

だけど、やっぱり人間は直前にならないとわからないので、それを放っておくのではなくて、うまいやり方をして幅広い層を巻き込むようなことができればいいなと思う。

宇都木委員 うん。だけど、こういうのは対象者をどうやって広げていくかというのが一つのパターンではダメなので、もう何でもかんでも。もう極端に言うと思いがたることは全部やってみるということじゃないと、だから私のところの地域の状況を見ていると、それぞれの地域でみんなやり方が違うのです。片方は何とかセレブアンド体操だとか、ダンベル体操だとかとやっている人たちを相手にしてこういうことをやっているのと、それからお年寄りの集まり、単純なお年寄りの集まりのところに行ってやっている人たちと幾つものパターンがあって、それでやっているからやるべきことははっきりしているわけだ、目標は。そういうアプローチの仕方というか、広げ方というのをもう少し研究が必要なのではないかなと思う。

久塚会長 それは。

宇都木委員 後のところで出てくるのだろう。

久塚会長 うん、項目4からちょっと外れるけれども、4のは宇都木委員の発言まで交えて言うと、決定方法の中に入るのですけれども、既に役割分担の決定などについて、日ごろからこう培ってきたものが財産としてあるので、それを積極的に生かすことで次のステップが見つかるでしょうという、新たに決定方法をどうこうということよりも。

宇都木委員 そう、そう、新しいことを何か見つける話ではないから。

久塚会長 今までやってきたことということをベースにちょっと文章をお願いいたします。

事務局 わかりました。

久塚会長 では、5番に移りましょう。これも2点でこういう形です。進捗状況や事業に関する情報が共有されているかどうかということです。努めているけれどもというのでちょっとブルーのところ幅が大きくなっていますが。

宇都木委員 これ、もっといい表現はないのですか。一番下の3行に「本事業の目標である、高齢者が健康に生活を送るためにどのような取り組みが必要かということ意識しながら」というのは、どのような取り組みが必要かということをやっているわけだ。それはだからそれを意識しているのだ、もう。だから、それがどこまで具体化できているかという話だから、もう少し表現。

これだと協働事業の目標が、まだお互いに共有できていないんじゃないのみたいに写っ

ちゃうじゃない、これでは。

久塚会長 ちょっと待って。今のブルーの下3行はどこから、左はどこ、何番ですか。

事務局 7番から。

久塚会長 主には7番。

事務局 はい。「意識しながら」というところを何かほかの表現に修正をさせていただくということ。

伊藤委員 ブルーの「意識しながら」というのをこの7番から持ってくるのなら「絶えず確認し合い話し合い」というところが重要じゃないのかな、意識というよりも。

事務局 話し合い、はい。

伊藤委員 確認し合い、話し合いながら取り組みがなされていること。

久塚会長 そこはその文章のつながりがそのまま一生懸命読めば読むほど段差が出てくる。流して読めば気がつかないのだけれども、ちょっと伊藤さん、できた文章があれば下3行、発言してもらえる？

伊藤委員 本事業の目標である、高齢者が健康な生活を送るためにどのような取り組みが必要かということ絶えず確認し、話し合いながら取り組みにつなげることを期待します。

久塚会長 そうしたら、かぎ括弧を使うぐらいで「高齢者が健康な生活を送るためにどのような取り組みが必要か、かぎ括弧で閉じて、という本事業の目標であることについて常に確認しながらみたいにしてしまってもいいわけ。だから、頭出しのところ、高齢者のところから必要かとかいうところまでを生かして、それを前に持ってきて、という本事業の目標を絶えず意識しながらみたいな形になると思う。

事務局 はい。

久塚会長 前の。

事務局 前をとるということですか、前をとって後ろに。

久塚座長 はい。

事務局 わかりました。

久塚会長 工夫することで文章のつながり方と流れをつくってください。

事務局 はい。

久塚会長 5番、よろしいですか。

では、赤字が入っているところが幾つかあるのですけれども、成果目標の達成度など

の話し合いということで、赤字抜きで説明をしてもらった箇所なのですけれども、この点については具体的に事務局からこうさせていただきましたという発言があったので、けれどもいかがですか。

衣川委員 削るままでよいと思います。青い部分の上2行目ぐらいまでに消した部分の内容が入っているのもこれでいいかなと。

久塚会長 ああ、はい、はい。

衣川委員 というふうに思いました。

久塚会長 なるほど。プラスの意味ではなくてということですよ。

衣川委員 はい、マイナスの意味のところですけども、同じ内容が入っていると思いました。

久塚会長 結局事務局のほうの触りとしては、自己認識が遅れているという認識ができていることは、それなりにいいのだということの中に入れようとしたわけなのです。そこが、つながりがあまりよくない。達成度の遅延についても認識しておりぐらいだったらいいのだということだね、短くすれば。

事務局 はい。

久塚会長 だから、無理して入れなくて衣川さんのご意見、今発言がありましたけれども赤をとって、認識しているとは言っても達成度がおくれ気味だということは、それなりの事実に近いことなので、ブルーのほうの文章のほうで生かさせていただくというふうに取り扱ってよろしいですか。

宇都木委員 はい。

久塚会長 7番、改善すべき内容の把握までですね、ここまで？

事務局 はい。

久塚座長 よろしいですか。

宇都木委員 7番、なし。

久塚会長 課題の内容の把握ですから。では、今までのところ、1から7までやってみて、なければ総合のほうに移りたいのですけれども、確認しますが、でき上がったものについては事務局でまた最終まとめのものをお示しいたしますので、きょうの時点では項目1から7まで先ほどお話しして、形の上での案を出したというもので取りまとめてよろしいでしょうか。

では、そうさせていただきます。では、総合評価のコメントまとめ、これCランクがについて

いますけれどもお願いいたします。

事務局 はい。総合評価です、Cです。高齢化が進む中、摂食嚥下機能の維持向上は重要な課題であり、区民に向けた効果的な普及啓発が喫緊の課題となっています。本事業は、そうした課題を的確にとらえており、他自治体のモデルともなりうる可能性を持った事業です。

実施に当たっては、適切な話し合いのもと、コミュニケーションを密に図りながら行われており、事業対象の高齢者が集う、既存のサロンや会合に出張する戦略も成功していると考えます。こうした地域に根差した地道な活動に加えて、団体の人脈を生かして専門家を巻き込むなど、これまでのノウハウや実績を生かしたものとなっています。

一方で、成果目標については、当事者による口腔機能の向上の確認等、アウトカム指標の設定も必要と考えます。養成したリーダーや製作したDVDの活用等についても、さらに一步踏み込んだ指標の設定を期待しています。

双方の役割や責任の範囲が明確になっているかの検討も必要と考えます。その上で、目標と比較して具体的に事業がどのように進捗しているか、必要経費等も確認しながら、計画に沿って進捗管理していくことが求められます。特に、成果目標としているリーダーの人数等については、その達成度の見通しを明らかにすることが必要です。3年目のホームページ構築に向けて、ウェブサイト等での広報についても力を入れることが必要と考えます。

この事業はリーダーの確保が重要になりますので、いかに区民の協力が得られるか、リーダーの発掘と育成、さらにモデル地域での実施や全区的展開を、どのように具体的に進めていくかがかぎとなると考えます。3年間という限られた期間の中で実現していくためには、双方が持つネットワークを駆使し、医師会等の関係機関にも協力を仰ぎながら、高齢者支援のNPOや地域団体等も含めて多くの関係者に積極的に参加を呼びかけ、区民の関心を高めるとともに、協働の相乗効果を十分に発揮しながら、事業実施していくことが必要です。

高齢者にとって嚥下障害の予防は重要な課題です。本事業は、誤嚥性肺炎や介護予防に重要な役割を果たすことから、その成果が期待される事業です。これを新宿区全域に広げることが非常に大変なことだと思いますが、本評価書やヒアリングでの質疑等を踏まえ、今後の改善を図ることで、さらなる成果を発揮した事業となることを期待しています。

以上でございます。

久塚会長 最後のほうは、色表示はブルーなのですが、これをブルーにするとちょっとマイナーイメージになってしまうと思うのですが、これは後ろのほうの5～6行はむしろピンクに近い評価とか実質判断のレベルなので、こうしろ、ああしろではない文体にはなっています。

ただ、それぞれの委員さんが書いたものをまとめ上げる形をとっているのだから、課題に近いような中に入っているとも言える表記をさせていただいたということでございます。全体的には文章の流れがうまくできていてなのなのですが、とても大切だけれども課題がある。その課題というのは、それぞれについてきちんと人材育成をしたり、DVDであったり、個別具体的なことの成果目標に合わせて達成度をきちんと測定しながら重ねていってやってくださいというようなものが中心だと思います。

このコメントのまとめについてはいかがでしょうか。

平井委員 ちょっとよろしいですか。ブルーのところリーダーの話がどういうことで使うのか。例えば一つ目のところで、これは成果目標としてのリーダーの話があって、真ん中のあたりに特にその成果目標に沿ってリーダーの人数というよりはその達成度の見通しを明らかにすることが必要ですというのがあって、ここは、ちょっと僕は重複しているのかなというのと、このリーダーの説明が3段落目のこの事業はリーダーの確保が重要になりますので、いかに区民の協力が得られるか、リーダーの発掘と育成、さらにモデル地域での、何かちょっとまとめ。これこれこれがこういうことだから成果指標の目標として設定するのがそうですよというふうにまとめられないかなど。

事務局 すみません。文章の組み立てから修正をさせていただきます。

平井委員 そのリーダーの確保が重要だから、成果目標としてきちんと策定しておくことが必要だというような何か説明を考えられて。

事務局 わかりました。

久塚会長 これでここだけで反応されてリーダーばかりやられてしまう。

平井委員 それもあります。

及川委員 及川です。各委員のコメントの中に、先ほどの参加者層に偏りがあるということがあったのをもう一度ポイントではないかということで書かれている方がいらっしゃるのだから、例えばコメントまとめのところの計画に沿って進捗管理していくことが求められるというところにちょっと加える形で。

久塚会長 それ、どのあたりにちょっと。ブルーの真ん中あたり、どれ？

及川委員 ちょっと混乱してしまっただけですけども、計画に沿って進捗管理がしていくことが求められますというところに2点あるんですけども、計画に沿って進捗管理していくことが求められるというところにその遅延しているということ、遅延が認められるということ、認められているので計画に沿ってというような形で具体的に、遅延はちょっと大きな問題ではないですか。それを入れたらどうかということと。

久塚会長 具体的に入れるということ、言葉をおくれているという。

及川委員 はい。総合まとめはちょっとボンヤリとした、もう本当に抽象的な言葉になりがちなのだけれども、実は実施されている方に具体的にこれ伝えたい部分でもあるのだらうなと思いますので、遅延が認められるというのを入れたほうがもうちょっとインパクトのある改善につながるのかなというふうに感じました。

久塚会長 それと。

及川委員 もう一つ、先ほど参加者層に偏りがあるということも問題として認められるので、その辺もこの総合まとめに入れてもいいのかなというのをちょっと感じました。

久塚会長 では、そこから引き抜く形でこのどこかに活用できればというご意見ですか。

及川委員 そうですね。ほかの委員の方も事業の広がりとかそういうこともコメントしていらっしゃるんで、ここに入れてもいいのかもしれないと思いました。

久塚会長 では、広がりというのを一般的な広がりという言葉だけではなくて、参加者層も含めた事業の広がりとか事業対象者層の広がりとか、何かそういう形でちょっと言葉を入れてください。

宇都木委員 宇都木ですけども、ちょっとリーダーの育成だけちょっと強調し過ぎてしまっているのではないのかなと思う。

久塚会長 同じ意見です。

宇都木委員 だから、リーダーがいなくてもグループができれば、そこにだれかが行けばいいのです。そのグループをつくるのが大変なのです。だから、リーダーがいればグループができるのではなくて、このごっくん体操の今やっていることでリーダー的な人たちが育ったとしても、その人1人では何もならないのだ。その人たちが必ずしもグループをつくれる能力のあるリーダーかどうかというのはわからない。体操のリーダーにはなれても、グループをつくるリーダーになれないから、そこを私らの市民運動的な関係から言えば、いかにさまざまな市民の集まりのところのグループに、どういう関係づけをしていくことができるかということのほうがむしろ大事なのだと思うので、そのところはリーダ

一、リーダーと言わない。協調し過ぎないで、そのグループも必要なのだ。グループを探す、つくる。改めてつくらなくてもいいのだ、つくってもいいのだけれども、今あるグループだって随分あるわけだから、かなりの数があるわけだから、そういうところでどうやって関係を持つかということも大事な取り組みなのだよということの一つ入れておいても良かったほうがいいのではないの。

事務局 わかりました。この「多くの参加者に積極的に参加を呼びかけ」というところがありますので、そこからちょっとつなげる形で参加者層についてももう少し事業対象者の広がりを感じられるような形でちょっと事業を進めてほしいというようなことを少しこの後ろに入れさせていただくと、ちょっとリーダーのことが確かにかなりたくさん出てしまっているので、そこを修正します。

久塚会長 発言をまとめると評価ではなくて、採択されたときもどういうところがよかったですというのがありますよね、これで採用しました。あの中でそのリーダーの育成が何につながるかと自分たちで考えているわけです。だから、宇都木さんのあれで言うとリーダーを育てるだけではなくて、それが何かにつながるということを考えれば、リーダー育成というのがとても重要になりますという、その最初のところが大事だ。

それをこの事業の趣旨であるリーダーの育成にあると考えられるのでみたいな形でやると、そのリーダーを育成することだけに特化しないアドバイスに、コメントになるのではないですか。

事務局 はい。

久塚会長 こちらの側がリーダーをつくれ、つくれ、つくれみたいな話しか言っていないように見えてしまうので、そこは部長さんも指摘されたとおりでと思うので。

宇都木委員 いかにも区民に広げていくかということだから。

久塚会長 コメントのまとめも今いただいたいろんな発言をもとにまとめ上げる形を取りたいと思いますがよろしいでしょうか。

平井委員 全体を通してこの団体のほかに医師会とか地域団体とかNPOと2回出てくるのですけれども、だいたい全体を見て同じような表現にしておいたほうがいいと思います。

事務局 わかりました。

平井委員 ここだけ何か細かく出てきて、6番とか非常に細かく。

久塚会長 具体的にいろいろ出てきている。

平井委員 あとほかのところも合わせて、どっちに合わせるか、それはありますけれど

も。

事務局 これまでの。

久塚会長 関連をする。前半と後半、一回りしたのですけれども、急に目についたというようなところでもございましたら。今のところないですか。

では、まとめてもらいますが高橋さんどうですか。

高橋委員 点数だけ見るとちょっとという気がしますけれども。

久塚会長 まあ、どうしても4段階評価にしているので、2や3の中で随分イメージが違います。

高橋委員 文章を読んでいくと、まあ、そういうふうに読める部分があると思います。

久塚会長 こちらの普通につけさせていただいたということでもよろしく願いいたします。

では、これで評価会は終了ということでもよろしいですか。

事務局 はい、本日は評価の関係で審議をお願いしたい部分は以上でございます。

久塚会長 そうすると評価報告書、評価について、その他のほうはないですか。

事務局 はい。次回の評価会の開催のみです。次の会議ですけれども、来月12月15日になります。

久塚会長 それのどれぐらい前にこれ、お渡しするような、つくりかえたの。もうここでまとめでしょう、全部終わるでしょう。

事務局 そうです。12月15日が確定になりますので、この1週間以上前にはお送りしたいなと思います。なるべく早目にまとめまして。

久塚会長 ということです。皆さんたちのところにきょうのご意見をまとめたものがいけますので、またそれについてのコメントというか、ご発言をお願いいたします。そして、会議で結論という形になります。よろしいですか。

では、協働事業の評価会、終わりたいと思います。

— 了 —